

様式 4

令和 6 年度 学校運営協議会評価報告書 1

鳥取県立倉吉養護学校
 学校長 門脇 由子

評価日	令和 6 年 5 月 3 1 日 (金)	
評価・提言		学校の所見・改善策
<p>1 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで同様避難訓練方法・緊急時の機器扱いに課題とあるが、課題とは何か。 <p>2 評価項目と目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部、情報教育部で ICT の活用について記載されている。高等部での ICT 活用の良さを生かした授業を具体的に説明してほしい。また、その中で生徒同士がどのようなやりとりを活発に行っているのか示してほしい。 <p>3 具体目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が現状の説明になっている。例えば、「健康教育部」の目標ですが、「歯肉炎の予防に向けてはみがき指導の充実が行われている」というのは「行われている」状況であることが目標なのか、「行われる」ことが目標 		<p>学校の所見・改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 火災の場合、出火場所に近いところでは、一斉の放送での指示を待たずに、安全確保の行動をとるということを、教職員へ周知していく必要がある。また、消火器や不審者対応時の 110 番通報ボタンなどの機器の扱い方に関する知識や認識に差がある。夏休みに研修を実施し、そこで教職員全体で共通理解する予定である。 高等部では、一人一台端末の実施をしているが（昨年度から順次）ICT の活用のよさを昨年度職員で確認した。見やすい・調べやすい等のよさがあり、修学旅行の調べ学習等で活用できた。（YouTube で疑似体験も可）プレゼンアプリでの発表にもつながった。重複障がい学級では保健体育の学習や観察日記等で活用できた。 「行われている」という状況ではなく、「行われる」ことを目標にした

なのか分かりにくい。

4 目標達成のための具体方策について

・健康教育部の目標に「肥満傾向の生徒の割合が減少傾向に向かっている」とあるが。倉吉養護学校の肥満の現状が示されていない。また、目標のための方策では「児童生徒の健康への意識の向上・・・」等を方策とするには少し、具体性が見えにくいのではないか。現状をしっかり示し（例えば他の知的障がい特別支援学校の肥満傾向児の割合と倉吉養護学校の肥満傾向児の割合との比較など）、具体的方策で目標に迫るとよいのではないか。

・具体方策の表記がわかりにくい。例えば、支援部の「校内就学支援委員会や体験入学・体験学習等で就学支援の視点が生かされ、PDCA サイクルで確認する」とあるが、「就学支援の視点」とは具体的に何を示しているのか、また、PDCA サイクルとあるが、どのような目標を設定し、どのような観点で評価を行っていくのか。

・目標達成のための具体的方策について次のように変更を行う。

- ① 肥満傾向の生徒のパーセンテージを明記する。
- ② 目標のための方策においても、「児童生徒の意識の向上」を「児童生徒が歯磨きをすることの大切さを理解し、毎日の歯磨きを丁寧に行っている。」に変更する。
- ③ 「指導者の学習に向けての意識の向上」の部分も、「歯磨き指導や健康増進に向けた学習の充実を図れるように」という文言に変更する。

・表記について検討する。

<就学支援の視点>

就学に関する判断基準の視点【学校教育法施行令第22条の3、辻村報告、障害のある子どもの教育支援の手引き（文部科学省）】

<PDCA サイクル>

目標→それぞれの子どもに合った、適切な学びの場の検討を行う

<評価の観点>

就学に関する判断基準が職員間で周知されているかどうか、それを元に一貫した考え方で適切な学びの場について検討がなされているか

<ul style="list-style-type: none"> ・ A部門の研修会を開催するとあるが、研修の内容を教えてください。 ・ B 中学部の生徒と指導者、生徒同士の関係づくりを行うとあるが関係づくりとは、どんなことをするのか。 ・ 評価項目（自己肯定感を高め・・・）欄での B 高等部の自己評価表が、どのようにするかが具体的で分かりやすい。 ・ 研究部の授業公開は他学部の授業を見る機会を知ることや良いことがたくさんあり、とても向上できると思う。 ・ 健康教育部=歯磨き・性・日常生活について、保護者の意識も高めていかなければならない。 <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の評価方法はおそらく教職員のアンケートであるかと思われるが。2段階評価なのか、いくつかの段階がある 	<p>どうか。</p> <p><PDCA サイクルでの確認とは> 支援部が校内支援担当を中心として、定期的実施している支援部会で、就学支援委員会や体験の実施状況等を評価していくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの対話的、主体的な学びという研究テーマでの研修を予定している。 ・ 関係づくりは日々の積み重ねと考えている。地域の小学校からも入学した子どももおり、子どもたちの不安やドキドキに向き合いながら、生活を一緒に楽しんでほしいと考えている。子どもが何を伝えようとしているのかを受け止めて言語化することを行ってTいる。（視線・表情・思い） ・ 今後の実践を充実させたい。 ・ 大事な視点であり、保護者への働きかけを検討したい。 ・ 段階評価と自由記述を設けた教職員のアンケートを実施して、評価を行
---	---

るものを活用するのか、評価の規準としている観点は目標がそのまま活用された規準なのか、それとも新たな評価規準を作成しているのかなど目標における評価について確認したい。

っている。多くは評価の規準としている観点は目標がそのまま活用された規準であるが、新たな評価規準を作成している分掌もある。